

「2023年の新年を迎えて」



日本複合・防音床材工業会会長
大建工業株式会社
常務執行役員 松川 保



明けまして おめでとうございます。

旧年中は、多大なご支援、ご配慮を賜り誠にありがとうございます。本年も引き続き、宜しく願い申し上げます。

昨年を振り返りますと、2019 年末から世界中でまん延した新型コロナウイルスが前年に引き続き猛威を振りました。しかし、既に世界は With コロナへの道を歩き出しており、日本においても訪日外国人観光客の受け入れを段階的に緩和し、新たな新型コロナウイルスとの共存を模索し始めました。

また2月24日にはロシアがウクライナに侵攻しましたが、この戦争は未だに解決の糸口が見つけられていない状況にあります。

そのような状況下で世界中が熱狂した FIFA ワールドカップカタール 2022 が開催され、我が国の代表は、最後まで諦めない姿勢や振る舞いで世界中のサッカーファンの心を確実に掴んでいました。

さて、私どもを取り巻く環境を振り返ってみますと、2021 年にアメリカでコロナ禍からの景気回復とリモートワークの定着等により住宅需要が急増したことが発端となり、世界中で木材が不足し価格の高騰を引き起こした、いわゆる“ウッドショック”の影響を特に前半は引きずった形になりました。

さらには、その間、急激な為替変動や原材料価格高騰の影響も大きく、会員企業の皆様をはじめ、業界の苦労ははかり知れない状況だったかと思えます。

政府の住宅政策としましては、2022 年度に「子育て支援」と「2050 年カーボンニュートラルの実現」に向けた省エネ高性能住宅の取得、リフォームに対して助成する“こどもみらい住宅支援”制度が新設されました。しかしながら住宅地の地価上昇や資材関係の上昇、職人不足等、今しばらくは、将来が全く読めない状況にあります

ここで、一昨年に引き続きコロナ禍で各委員会は十分な活動が出来ない状況ではありますが、昨年の活動を少し振り返ってみたいと思います。

まずは、技術委員会・床暖房規格運用検討チームです。林野庁の国産材率 50%を達成する政策目標に賛同して、複合フローリングの 80%を占める床暖房対応製品の台板において、国産材利用の向上を実現するため、昨年度に複合フローリングの床暖房への適合性試験規格（工業会規格）を確立し、当初昨年 4 月からの運用開始を目標としていましたが、残念ながら、関係機関との調整が整わなかったため、あらためて、今年 4 月運用開始を目標に検討・調整し、運用開始後の 4 月以降はその定着を進めていきたいと考えております。

次に資材流通委員会ですが、3 年ぶりにリアル会議を開催し、新型コロナウイルス感染拡大予防に配慮しながら、5 月に「環境施設 舞洲工場（ごみ焼却施設、大阪市）」12 月に「日本銀行大阪支店（大阪市）」の見学会を実施いたしました。

引き続き、2023 年度も新型コロナウイルスの感染状況をみながら 2 回の見学会、勉強会を計画したいと思います。

広報委員会もリモート会議での活動を中心としながらも、それに加えて、3 年ぶりにリアル会議を開催し、「フローリング・ナビ」コンテンツ拡充のため「抗菌・抗ウイルス対応商品（SIAA 認定商品）」の紹介ページを新たに掲載し情報発信を行いました。

また今後は、2023 年度中を目途に「フローリング・ナビ」で最もアクセスの多い「防音関連」コンテンツの更新、拡充を進めていき、より多くの方に、役に立つホームページにしていきたいと考えております。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げるとともに、工業会会員の皆様並びに「産・官・学」関係者の方々の、より一層のご支援をお願いいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年も変わらぬお引き立ての程よろしくお願い申し上げます。